

## 視察調査・研修会等報告書

令和4年5月27日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋 一 様

議員氏名( 高 橋 栄 )



研修・視察年月日	令和4年5月16日(月)～令和4年5月18日(水)
研修会場・視察先	5月16日(月):青森県八戸市役所 視察先:八戸ブックセンター 5月17日(火):宮城県栗原市役所 5月18日(水):宮城県東松島市役所
研修名・視察目的	5月16日(月):市直営のブックセンターについて 5月17日(火):移住定住促進事業について 5月18日(水):SDGs未来都市について
対応者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	5月16日(月):八戸ブックセンター 所長 音喜多信嗣 5月17日(火):栗原市企画部定住戦略室 係長 栗原 聡 5月18日(水):東松島市復興政策部地方創生・SDGs推進室 係長 成澤史浩
参加議員(同行者)	関良平議員、小川亘議員、福田洋一議員、荒井覚議員、岡田裕議員、 篠崎佳之議員、福田幸平議員、渡邊一郎議員
調査概要	<p>【八戸ブックセンターについて】:インターネットやスマートホン等の普及により読者離れにあって、市が主体となって直営ブックセンターを中心に民間書店等と連携し「本を読む人をふやす」、「本を書く人をふやす」、「本でまちをもりあげる」に取り組んでいる。</p> <p>【移住定住促進事業について】:市の企画部定住戦略室より、移住定住サポート事業、空き家等利活用事業、首都圏等にオフィスを開設した交流・移住プラットフォーム創出事業、出会いサポ事業など幅広い部門を一つの室で取り組んでおり、「住みたい田舎ベストランキング 2021」東北エリア総合1位獲得となった。</p> <p>【SDGs未来都市について】:2018年に国の「SDGs未来都市」に選定され、復興のモデル都市から地方創生のモデル都市へを目標とし、産学連携しSDGs推進に向け取り組んでいる。</p>

## 視察調査・研修会等報告書

<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>【八戸ブックセンターについて】:市が主体となって、本に触れる事業を民間書店、図書館と連携して上手く事業化している。</p> <p>昨今の本離れ対策には模範となる事例であり、当市としても参考とし、当市にあった手法も模索して取り組みたい。</p> <p>【移住定住促進事業について】:一つの部室が移住定住の「空き家利活用」「出会いサポート事業」「首都圏でのPR」等あらゆる分野を所管しており、移住促進事業について掌握されている。当市の場合は各部課が所管しているが総合的な新たな「移住定住」担当部署を設ける上で大変参考となる。</p> <p>【SDGs未来都市について】:復興に対する力が産学官連携の源と感じた。当市の未来に向けた都市づくりとしての産学官連携は、東松島市などを参考とし、取り組んでいくことが望ましい。</p>
---	--

## 視察調査・研修会等報告書

令和4年7月20日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋 一 様

議員氏名( 高橋 栄 )



研修・視察年月日	令和4年7月13日(水)～令和4年7月15日(金)
研修会場・視察先	7月13日(水):福岡県北九州市役所 7月14日(木):山口県山口市産業交流拠点施設 7月15日(金):岡山県岡山市役所
研修名・視察目的	7月13日(水):介護ロボット等開発・導入実証事業について 7月14日(木):山口市産業交流拠点施設について 7月15日(金):SDGs未来都市及びESDの取り組み状況について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	7月13日(水):北九州市保健福祉局先進的介護システム推進室 次長 堀江吏志 7月14日(木):山口市商工振興部ふるさと産業振興課新事業支援担当 副主幹 谷野昇平 7月15日(金):岡山市市民協働局市民協働部SDGs・ESD推進課 課長補佐 水谷宗平
参加議員(同行者)	関良平議員、小川亘議員、福田洋一議員、荒井覚議員、岡田裕議員、 篠崎佳之議員、福田幸平議員、渡邊一郎議員
調査概要	<p>【介護ロボット等開発・導入実証事業について】</p> <p>政令指定都市で最も高齢化が進む北九州市では、今後の介護人材不足の深刻化が懸念され、これを期に、これまで培ってきた医療・保健・福祉施策の豊富な実績や、高い技術力を持つ企業・学術研究機関との連携による推進体制を活かし、介護現場にロボット技術等を導入することで、「九州モデル」として介護作業の効率化だけでなく、介護の質の維持・向上、更には現場職員の働きがいを高める「先進的介護」の実現に向けた取組みを行っている。</p> <p>【山口市産業交流拠点施設について】</p> <p>新山口駅前に産業交流拠点施設が「出会う つながる 生まれる 広がる」をコンセプトとし、産業の賑わい、新たなビジネスを生み出す「核」となる施設として整備され、令和3年に運用開始された。</p> <p>整備手法は、施設の設計、建設、維持管理、運営までを民間事業者に一体的に委ねる「PFI的手法」を採用し、公募型プロポーザル方式により整備された。</p> <p>最大 2,000 人を収容できる可変型「メインホール」や大小12の会議室</p>

# 視察調査・研修会等報告書

	<p>をはじめ、新たなビジネスの創出を支援する産業交流スペース「メグリバ」、健康づくりとヘルスケア関連産業の創出を目指す「メディフィットラボ」、シェアハウス型の若手人材育成施設「アカデミーハウス」など、産業と交流をキーワードにした「多機能複合施設」となっている。</p> <p>近隣市と連携するなど県全体として取り組んでおり、メインホールをはじめ施設の稼働率も予想を上回っているとのこと。</p> <p>今後の予定として、この敷地利戦地にホテル、マンション、商業テナント等の民間再開発を促していくとのこと。</p> <p>【SDGs未来都市及びESDの取り組み状況について】</p> <p>岡山市では、2005年より、「ESD＝持続可能な社会の担い手を育む教育」プロジェクトを開始しており、同時に産学官連携による岡山市ESD推進協議会ネットワークの構築により、持続可能な社会の実現に向け、共に学び、考え、行動する人が集う地域づくりに向け取り組んでいる。</p> <p>発足時の活動団体が48から2022年現在で356組織に拡大している。</p> <p>養成のための「ESDコーディネーター研修」、「学校や公民館を拠点としたESD推進」、国内外におけるESDの優良事例を表彰する「ESD岡山アワード」等幅広く取り組んでおり、SDGs(持続可能な開発目標)の達成の手段や鍵としてのESDを最重点化として扱っている。</p>
<p>市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等</p>	<p>【介護ロボット等開発・導入実証事業について】</p> <p>北九州市では、平成28年4月に、内閣府の国家戦略特区事業に認定されたことにより、公募により介護等機器の導入実証に協力いただく特別養護老人ホーム(5施設)を実証施設として選定されるなど、介護福祉施設の数(82施設)や介護ICTに向けた介護ロボット等の開発事業者などの多さ等、小山市との取り組む背景の違いを感じた。</p> <p>しかしながら、今後の高齢化や要介護認定者数を見極めて取り組む介護事業や介護現場のさらなる働き方の向上のために、「ICT・介護ロボット等の活用」「効率的な人員体制」を包含する働き方モデルは大変参考となった。</p> <p>【山口市産業交流拠点施設について】</p> <p>当市では、こういった大小のコンベンション交流拠点施設はなく、また、山口市のようにネットワーク拠点として新幹線の停車する駅周辺(JR用地等を利用)に、整備された点、また、近隣市町や県との連携、民間事業者、国の支援協力も必要となる等大変参考となると感じた。</p> <p>ただ整備するにしても、こういったコンセプト構想かやこういった整備</p>

## 視察調査・研修会等報告書

	<p>手法かを市民と共に共有することが大変重要であると認識した。</p> <p>【SDGs未来都市及びESDの取り組み状況について】</p> <p>当市においてもSDGsに向けて取り組むこととなっているが、市としての特徴を出すことも必要かと感じた。</p> <p>また、岡山市のようにSDGsを小学生からご高齢者の方までが取り組みやすく、馴染みやすい体制づくり(例えば、学校を拠点としたESD推進や各地区で持続可能な地域づくり(まちづくり)をそれぞれの各地区の特長を活かしたESD推進)が必要ではないかと感じた。</p>
--	--

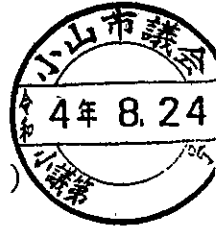
## 視察調査・研修会等報告書

令和4年8月24日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋 一 様

議員氏名(高橋 栄)



研修・視察年月日	令和4年8月17日(水)～令和4年8月19日(金)
研修会場・視察先	8月17日(水):北海道北広島市役所 8月18日(木):北海道美唄市役所 8月19日(金):北海道千歳市役所
研修名・視察目的	8月17日(水):グリーン・ツーリズム推進事業について 8月18日(木):ラムサール条約登録「宮島沼」の利活用について 8月19日(金):妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援「ちとせ版ネボウラ」について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	8月17日(水):北海道北広島市 経済部農政課 課長 山田隆博 8月18日(木):北海道美唄市 宮島沼水鳥・湿地センター長 牛山克己 8月19日(金):北海道千歳市 保健福祉部母子保健課 課長 金川律子
参加議員(同行者)	福田洋一議員、荒井覚議員、岡田裕議員、篠崎佳之議員、 福田幸平議員
調査概要	<p>【グリーン・ツーリズム推進事業について】</p> <p>グリーン・ツーリズムとは、地域による農業漁業などの体験を通して、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより農村漁村の活性化を図る新たな観光のあり方をいう。平成4年農林水産省グリーン・ツーリズム研究会の中間報告によると「農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」と定義されている。</p> <p>北広島市は、以前より市内農業者数の減少、耕作放棄地化の恐れから農地の有効活用として都市近郊という立地を生かし「市民農園や観光農園等の振興」、「余暇的農業や体験農業の推進」を事業化されてきた。</p> <p>また、法律の制定や北海道の指針により市独自の「農村滞在型余暇活動機能整備計画書」、「グリーン・ツーリズム」の基本的な考え方を策定し、北広島市総合計画に位置づけ、本格的にグリーン・ツーリズム推進事業として事業化されてきた。</p> <p>【ラムサール条約登録「宮島沼」の利活用について】</p> <p>美唄市の宮島沼には、1980年代よりマガンの飛来地として認知されていたが、1989年の鉛中毒によるマガン、ハクチョウの大量死をきっかけに行政側と地域住民による「宮島沼プロジェクトチーム」発足に伴い、</p>

## 視察調査・研修会等報告書

2002年「宮島沼保全活用計画」が策定され、ラムサール条約に登録された。

これら計画の策定やラムサール条約の登録を機に、それまでの地域課題であった観光被害や農業被害に対して、市が運営している環境省による「宮島沼水鳥・湿地センター」の設置、宮島沼の魅力を伝える「宮島沼カントリーフェス」など地域の特色のある観光施策が始まった。

さらに、沼の浚渫や周辺田んぼにマガンの餌場を作ることによる環境対策など取り組んできている。

また、湿地センターを中心に地域住民、市民団体、子供たち、専門家、そして環境省、北海道、市、地元関係者など行政側も含めた地域連携による枠組みが構築されている。

これらにより、湿地センターには年間来館者は2万人前後となっており、宮島沼周辺の来客を入ると相当数の観光者が訪れていることになる。

【妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援「ちとせ版ネウボラ」について】

千歳市は、北海道内で最も低い高齢化率(23.3%)であり、最も若いまち(平均年齢44.3歳)である。

市内に航空自衛隊の基地を所有し、その職員の多くが住んでいることも大きな影響を持っている。

市の核家族化率が93.3%と多くを占め、親族との同居が少なく子育てに不安のある家庭が多く、出生率が平成26年から減少してきている。

そのため、平成26年より、妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援を提供し、子育て世代がしあわせを実感できる「子育てのまち」を目指し始めた。

平成28年10月より、「ちとせ版ネウボラ」を開始した。地域のつながりの希薄化による妊産婦・母親の孤立感、転出入が激しく親や友人が近くにいない等の特性や要望が高いこともあり「全ての妊婦、母子、子育て家庭に対して、直接のアドバイスや援助の機会を確保し、生まれる子供たち一人ひとりの幸福を実現します。」を理念とした「ネウボラ」のきっかけとなった。

市の各部署が連携し、妊婦・出産や子育ての不安を解消し、産後うつ、育児ノイローゼ、児童虐待を予防。親を指導するのではなく、ともに考え、寄り添い、必要時は機関と連携し、チームで支援を行うこととなっている。

# 視察調査・研修会等報告書

市政の課題等に対し  
どのように参考になるか、  
所感等

## 【グリーンツーリズム推進事業について】

北広島市は、大都市札幌市の近郊でありながら、第3次産業が全体の8割を占めており、平成初年度頃より農業者数の減少や、それに伴う農地の荒廃化に危惧され、あらゆる対策を講じてきた。

地域の違いはありますが、農業者の担い手不足や耕作放棄地の問題は全国的なものとなっている。

残念であるのは、これまでの取り組みにより、農業者数や耕作放棄地の大きな解消には至っていないと聞く。

しかしながら、これらの課題には、長く辛抱強く続けていくことが重要ではないかと感じた。

小山市においてもグリーン・ツーリズム推進事業での農村地域への多くの交流(交流農園事業など)を生み出す施策や都市型農業の市の魅力等を発信するなど、地域経済の活性化につなげていく事業は大いに参考にすべきと感じ、辛抱強く継続していくことが肝要ではないかと思う。

## 【ラムサール条約登録「宮島沼」の利活用について】

宮島沼と同様にラムサール条約登録「渡良瀬遊水池」を有する本市としては、宮島沼に係る連携と協働となる地域連携の枠組みは大いに参考としていくべきと思った。

特に、コウノトリが住む遊水池として、もっと国、県との連携を強化して地元との連携強化に繋がっていかねばと思う。

本市の「渡良瀬遊水池」は周辺他市町が繋がっている湿地帯であり、治水対策としての役割が大きいため、宮島沼との位置づけには違いはあるが、観光政策として強化していくためには見習って行ければと思う。

## 【妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援「ちとせ版ネボウラ」について】

「ちとせ版ネボウラ」の特徴である切れ目のない個別支援「妊娠期支援プラン」、「産後支援プラン」、「乳児期支援プラン」、「幼児期支援プラン」、「養育支援プラン」は、市の総合保健センター、子育て支援センター、家庭児童相談室が連携し関係部署とのネットワークが構築され、まさしく切れ目のない支援が充実されており、本市でも無理なく大変参考となる施策ではないかと思う。

この施策の理念・趣旨でもある全ての妊婦、母子、子育て家庭に対し



## 視察調査・研修会等報告書

	<p>て、直接のアドバイスや援助の機会を確保や、妊婦中や子育て中に一人で悩まずに気軽に相談できるこの施策は是非とも子育て日本一を目指す小山市でも取り組むべき事案と感じた。</p>
--	---

## 視察調査・研修会等報告書

令和 5年 1月30日

下記のとおり報告いたします。

小山市議会議長 福田 洋一 様

議員氏名( 高橋 栄 )



研修・視察年月日	令和 5年 1月27日
研修会場・視察先	東京都千代田区永田町 衆議院第二議員会館 第2会議室(1階)
研修名・視察目的	新4号国道の高規格化について
応対者(説明者)の 役職・氏名等 ※視察調査のみ記載	国道交通省 道路局 国道・技術課 長谷川朋弘課長、柴田芳雄企画専門官、 久保田博之係長
参加議員(同行者)	荒井 覚議員、福田幸平議員
調査概要	新4号国道における栃木県内の高規格化の現状及び誘致企業や地元がより良く安全に利用しやすくするための整備手法について
市政の課題等に対し どのように参考になるか、 所感等	国土交通省より、新4号国道沿線に誘致された企業や地元の方々により安全に効率よく利用するために、沿線県、市そして国の機関も含めた期成同盟会などを設けて、各地区の課題(問題点)などを吸い上げて国に対して要望できるように尽力していきたい。